# 水原郷病院の公設民営化

## 病院の再生に向けて②
## ～民営化の理由・病院ネットワーク～

### 1 民営化の理由

水原郷病院は、平成17年度から平成21年度までに市の一般会計から通常の繰出金とは別に、16億5千万円の赤字補てんを受けています。しかし、市の一般会計からこれ以上の赤字補てんを続けていくことは、非常に困難です。

つまり、水原郷病院を存続させ、これからも阿賀野市に医療を残していくためには、病院経営が市財政に依存せず、自立できる財務体質としなければなりません。

水原郷病院の経営が悪化した理由には、さまざまなことが考えられます。その中でも、これまで水原郷病院が市内の唯一の総合病院としてすべての医療機能を一手に引き受けてきたものの、医師不足や診療報酬の引き下げなどの近年の厳しい医療情勢に、単独の病院では対応しきれなかったということも原因の一つとして考えられます。【図1】

【図1】

### 2 病院ネットワークの活用

指定管理者である新潟県厚生農業協同組合連合会（厚生連）から提出された事業計画書には、前述の課題を解決するヒントが示されています。それが病院ネットワークです。

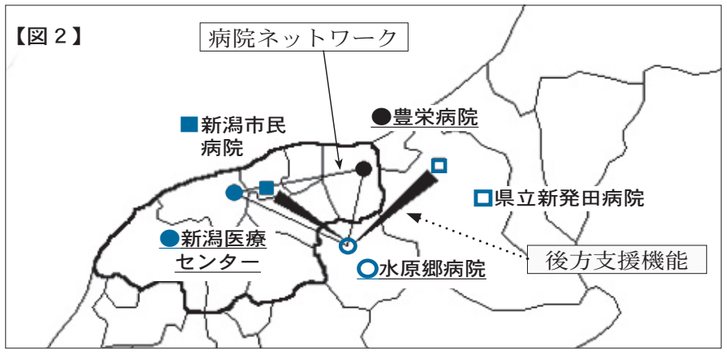
旧新潟こばり病院を引き継いだ「新潟医療センター」を基幹病院と位置づけ、豊栄病院などの厚生連の病院とネットワークを構築することで、機能を分担したり、医療機器の共同利用等を進めたりすることによって、今まですべてを単独で行ってきたときと比べて診療機能の充実と経費を削減できるようになります。

また、厚生連グループ内での人員の効率的な配置が可能になり、医師の確保にも有利となるので、救急医療など医療の質の向上も期待できます。

### 3 後方支援病院としての役割

下越地域と新潟地域の基幹病院である県立新発田病院と新潟市民病院は、第3次医療機関として高度・専門医療を担っています。しかし、症状が安定し、回復期に入った患者については、地元の病院が対応する必要があります。水原郷病院には、この回復期の機能を果たすことが期待されています。【図2・図3】

【図2】

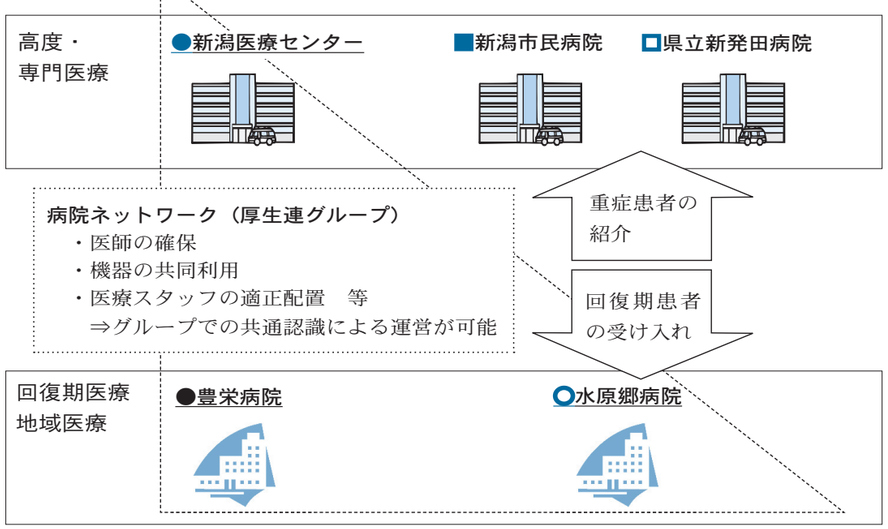



### 4 公設民営化のメリット

このように、これからの病院は、単独ですべてを行うのではなく、病院経営のグループ化や病院機能のネットワーク化によって対応していく方が有利と言えます。

今回、指定管理者となった厚生連は、県内で16の病院を運営しており、このグループ化・ネットワーク化のメリットを最大限に発揮できる団体（公的医療機関）です。

【図3】




### 5 職員の理解・協力が必要

今回の公設民営化は、職員の身分や労働条件等の変更にかかわることがらであり、職員の理解と協力が欠かせません。

現在の病院職員は、みな地域医療に貢献したいとの高い志を持って水原郷病院に就職し、その任に当たっています。

市としては、水原郷病院の機能を維持し、また、職員の雇用を確保するためにも、職員全員から改めて厚生連の職員となって水原郷病院に勤務してもらい、引き続き阿賀野市の地域医療を担ってほしいと願っています。

今後も、厚生連に対して職員の全員雇用を要望するとともに、病院職員の理解と協力が得られるよう努力してまいります。

■問い合わせ
企画政策課
病院改革推進室
☎61-2483（直通）